

名 ま え

29期生

I テーマ設定の理由

夏休み前の国語の授業で、木下先生が自由研究について話された時、例として名まえを上げられた。そこで、名まえというタイトルだけでは、テーマが大きすぎると思ったので、年代別に多い名まえ、と具体的にしてみようと思ったわけである。学校の勉強の内容とは結びつかないが、おもしろい題材だと思ったから。また、楽しんでやれそうなところに魅せられたのかも知れない。

II 研究方法

計画としては、市役所の戸籍をたよりにして、統計資料、あるいは名まえの参考資料をもらおうと考えていた。が、夏休みが始まってすぐ市役所を訪ねた結果、期待は大はずれであった。新生児の届け出はできるが、そんなことを調べている所はない、と言われたのである。また、木下先生の助言どおり、名まえの本を基本知識として1冊は読もうと試みた。しかし、佐藤さんの本、珍名集など姓に関するものは多いが、名といえば、愛児の名まえのつけ方の類ばかりで、参考にならなかった。そこで、名簿を使って統計をとることから手がけた。明治20年頃生まれ、明治30年頃、大正7年頃、昭和2年頃、昭和15年頃、昭和20年頃、昭和30年頃の項をつくって、それぞれどんな名まえが多いかをさがし出すのである。名簿は、奈良女子大学の佐保会会員名簿、奈良高等学校の宝相華会員名簿と青松同窓会名簿によった。なお大正7年以前においては、これらの学校はそこまで歴史がないので、100年の歴史を持つ母校鼓阪小学校を訪ねて卒業生名簿からとった。

こうして自分なりの年代別の傾向がつかめた後、朝日生命に行き、参考資料を提供してもらった。これは、その頃風間先生が以前の朝日新聞に名まえについての記事が出されていたと助言して下さったからである。また、名まえをつける時、何を主に考えられたかということ、2Cの人に、自分のわかる範囲でと、アンケートをとった。

III 研究結果

まず、女子から手がけて女子だけに終わってしまったことを、反省しなければならない。また、何しろ調べた人数が小規模なので、どの結果も信頼できるデータとまで言えないかも知れない。でも、私自身のデータとして結果は、次のように出た。

表I参照（いずれも、年代は前後2.3年幅を見ている。）

(1) 年代別における多い名まえ

(1) 明治20年頃生まれ（現在90才位の人）名簿の人数が少なかった為、総数196名と、実に少なくなってしまった。そのうち、キクが4.1%、ヨシ、リュウが3.1%を占

〔表I〕

明治20年頃	明治30年頃	明治40年頃	大正7年頃	昭和2年頃	昭和15年頃	昭和20年頃	昭和30年頃
1. キク	1. スエ	1. よしこ	1. としこ	1. かずこ	1. かずこ	1. よしこ	1. けいこ
2. ヨシ	チヨ	2. ふみこ	2. まさこ	2. さちこ	2. けいこ	2. けいこ	2. ともこ
リュウ	2. シズ	3. さだこ	よしこ	3. としこ	みちこ	3. かずこ	ひろこ
3. シゲ	3. ミツ	ちよ	3. かずこ	4. せつこ	3. ひろこ	ひろこ	3. まさこ
タツ	4. シゲ	としこ	4. みちこ	みちこ	4. よしこ	4. ふみこ	4. ひろみ
ヒサ	ヨシ	4. しずこ	5. ふみこ	ようこ	5. まさこ	5. えみこ	5. ようこ
フサ	5. ツル	はるこ	きよこ	5. きよこ	6. えみこ	みよこ	6. のりこ
4. シズ	トメ	みちこ	すみこ	まさこ	さちこ	まさこ	7. よしこ
ツル	6. キヨ	5. みつこ	6. ひでこ	6. よしこ	7. せつこ	6. さちこ	8. あつこ
トク	キクエ		7. あいこ	7. れいこ	やすこ	としこ	みちこ
トメ	セツ		はるこ	8. ふみこ	8. きよこ		9. やすこ
トラ	トミ		みつこ	やすこ	のりこ		
ヨネ	フサ						

めている。ほとんどが片仮名の2文字で、3文字の名まえについてはハルエ、スエノのように、エカノで終わっているものが多い。

- (2) 明治30年頃（現在80才位の人）総数500名のうち、スエ、チヨが3.2%、シズが3%という順で占められている。この頃はまだ片仮名2文字の傾向が強い。また、同様にして3文字の名まえについて見ると、〇〇エが、とびぬけてふえている。さらに、このあたりで子のつく名まえが、ほんの少し出現した。
- (3) 明治40年頃（現在70才位の人）総数391名で、よしこが3.6%、ふみこが2.8%の順で占めている。上位のほとんどが子のつく名まえになったことは意外である。調べたうち、213名、約54.5%がそれにあたる。が、ちよが依然として人気があるのはなぜだろう？ 漢字もみうけられたが、大幅にみて片仮名から平仮名になってきているもよう。
- (4) 大正7年頃（現在60才位の人）総数542名で、としこが4.8%、まさこが3.7%の順で占めている。予想どおりちよが落ちて、明治時代特有の名まえから、現在に至る名まえに転換したようだ。なお、子のつく名まえは、411名、約75.8%にまで上昇した。
- (5) 昭和2年頃（現在50才位の人）総数642名のうち、かずこが8.3%、さちこが4.8%を占めている。かずこは和子、さちこは幸子以外に例に見ない。かずこは前もあつたがさちこは急に頭を上げた。関東大震災、日露戦争など不安定な世の中に育った親の、平和を願う気持ちがこめられているのだろう。また、子のつく名まえは、574名、89.4%にまで達した。
- (6) 昭和15年頃（現在35才位の人）総数635名で、かずこが3.8%、けいこ、みちこが3.6%を順に占めている。かずこは、なおも首位を保っているが、パーセンテージでは、大幅に減っていることがわかる。としこがダウンして、けいこがのびてきている。私は、啓子と書くが、この時は、全部といってよいほど恵子が多かった。恵子……恵まれた子に育てと、これも社会を背景にした親の切な願いだろう。子の

つく名まえは、564名で、88.8%。昭和初期に比べて、0.6%減少である。子をつけるブームのピークは、早くも過ぎたのだろうか。

(7) 昭和20年頃（現在30才位の人）総数428名のうち、よしこが6.1%、けいこが4.7%である。かずこが少しダウンして、よしこがぐんと伸びてきた。けいこもパーセンテージを見るとまだふえつづけそう。なお、子をつく名まえは、356名、83.2%で減少の色を見せ始めている。

(8) 昭和30年頃（現在20才から14才位までの人）総数1111名で、けいこが6.6%、ともこが3.7%、啓子もよく見られるようになった。（佳や景は低空飛行）母から聞いた話があるが、34年に皇太子御成婚があったので、一時、美智子が流行したという。子をつく名まえは851、76.6%になった。上位は依然として子をつく名えであるのかかわらず、減少している。ということは、子をつかない名まえが、相当頭を上げたと考えられる。そこで、子の変わりに何が使われているか、3文字のものについて調べてみた。すると、圧倒的にみが多く、よとえが後に続いている。みとは、美が多いのではないか。

(2) 何を考えて名まえがつけられたか。

(1) アンケートの観点は、次の5つの通りである。

(ア) 親の字をとつて

(イ) 親の趣味で

(ウ) 読みやすいから、書きやすいから

(エ) 親の希望を託して（将来、こんな子に——）

(オ) 親以外の人につけてもらった。

〔表Ⅱ〕

(ア)	-----	3人
(イ)	-----	4人
(ウ)	-----	0人
(エ)	-----	15人
(オ)	-----	3人
(ア)&(ウ)	-----	2人
(ア)&(エ)	-----	2人
(イ)&(エ)	-----	2人
(エ)&(オ)	-----	2人
unknow	-----	2人

親の希望を託してつけられたものが多かった。

不健康な赤ん坊だったので健やかに育てと 健（たけし）

何事もかどばりのないまろい性格に育てと 環（たまき） etc

趣味でつけられたものいくらかあったが、

転勤前の近くの川の名、多摩川をとつて たまみ

など、どれも趣を感じさせる。

漢字2文字の名まえでも、1字1字違う理由でつけられたもの多かつた。また、10人程の若い親にインタビューしてみたところ、どの親も

子どもの名まえをつけるのに、漢和辞典にくびびきになったりして

ずい分苦労した過程がある。

最近の若い人は、趣味でつける名まえが多いのではないだろうか？

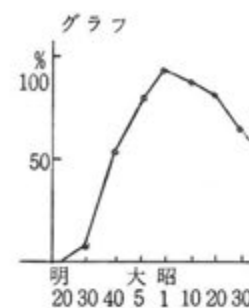
なんていう私の考えは、まちがっていたようだ。

Ⅳ 結 論

明治時代は、片仮名2文字の類が多い。それは学校制度が低度であったため、人々は文字をよく知らなかったためかも知れない。名まえだけは書けるようにと、簡単な文字でつけられたんだと考えられる。明治40年以後、全く性質の違う名まえに総替えされ、片仮名から平仮名に、やがて漢字へと変わっていった。子をつく名まえは、明治30年頃から現われて、昭和初期から15年頃までにピークを迎えたかに見え、20年頃になると減少の色が

うかがえる。その時、子の変わりに、美が用いられるようになった。子をつく名まえの変化を示したのがグラフⅠである。以後、何か変動のない限り、下降の一途をたどると予測される。次に、名まえのつけられた理由については、将来への希望を託して、が多かった。また、若い親も含めて、子どもの名まえは、いかに真剣につけられるかがわかった。

朝日生命では、東京本社からの記事の写しが手に入った。年代別に載っていなかったが、ここで、「名の10傑」女性名を見てみ



よう。この調査の対照は、1000万人の契約者であるが、年齢にかたより

はないだろうか？ この10傑は、私のデータの、昭和初期から15年、20年の上位の名まえが反映されているのである。従って、契約者は年輩の方で55、6才、そして我々の親の年代を通して、若くて30才くらいの人にかたよっているのではないかといえる。また、昨日、毎日新聞から発行されたばかりの本（日本の人名）が、きょううまく入手できた。一部を是非ここに抜粋しておきたい。日本語「こ」の意味——「子」、「小」、「粉」を通じて「ちいさきもの」を意味している。2人の愛のあかし、生みの子ゆえにいとしく、小さきものゆえに、なお愛でずにはおられないもの、それが初生の「子」。世の親達の慈愛の情の自然の発露。だからはじめは、男にも女にも、身分の高き者にも低きものにも付けて子ども

〔表Ⅲ〕

1	清	和子
2	実	幸子
3	勇	洋子
4	茂	節子
5	博	恵子
6	進	文子
7	弘	久子
8	正	京子
9	三郎	美代子
10	一郎	恵美子

もの名まえとした。さらに親愛の情をこめて人を呼ぶことばともされ、推古女帝は、蘇我馬子を「蘇我能古」と呼んで信頼の度を示された。やがて、男子の「△△子」はあまりに素朴で、感情過剰のめめしさと幼さがあり、男子の名には、もはやふさわしくないとされ、やさしく愛らしい「○○子」様式を、女子専用の名として、新しく評価された。そして現在にいたる伝統となっている。

Ⅴ 総 括

女子だけに終わってしまったのがいけないが、これでも自分なりによかつたと思う。

数字のデータに埋もれながら、いろんなことがわかっていくこんな研究も随分おもしろかつた。きょう手に入れた本を読んで、ますます興味をひかれる私である。今回は昭和30年までに終わったが、幼稚園、保育園に手がけると、最近のことがよくわかつただろう。来年は、知識を豊富にした上で、もっと色々な角度から、男子についてもやってみたいと思う。